

BI ツール活用による自治体のがん対策データ利活用の新展開

原將太¹ 長本敬幸¹ 佐々木和美² 高崎光浩³

佐賀県がん撲滅特別対策室¹

佐賀大学医学部附属病院がんセンター²

佐賀大学理工学部³

1. はじめに

がん対策において、データ利活用は不可欠である。また、自治体においては県民への情報公開が推奨されていることから効率的に情報公開ができる仕組みが必要である。これまでがん関連データの利活用においては、Excel で表計算だけでなく視覚化や基本的な分析を行っていたが、同じデータでも用途が異なる Excel ファイルが多数保管されている現状であった。これら大量のデータをリアルタイムで素早く集計、分析、アウトプットできる機能が必要と考え、BI ツール (Microsoft Power BI) を導入した。

2. BI ツール導入の取り組み

導入にあたっては、佐賀大学で操作マニュアル、データの取り込みからレポートの作成までの事例を作成している。例えば罹患率を示す場合、佐賀県と全国値を合わせて表示することは多くの県で行われているが、e-Stat の関連データを取り込んでおくことで、佐賀県と特性 (人口構成とか) が似た他県と比較するなど、新たな視点での比較可能となっている。取り組んだ事例の中から佐賀県のがん情報サイト「がんポータルさが」で公開することで、効率的な県民への情報提供を行っている。

3. 今後の展望と課題

罹患率や地域ごとの傾向を視覚的に把握

しやすくなっていることから、初めてがん対策担当となった場合でも専門知識への抵抗が軽減され業務に取り組みやすくと推測する。今後もデータが BI ツールに蓄積されることで経年変化の分析を通じて、施策の効果を明確に評価できると考察するが、新規データや取り込むデータの形式や定義が変更となった場合の対応は自治体担当者では困難であるため、今後も大学と連携しつつ、組織内での BI ツール活用を促進し、職員の分析スキル向上に取り組むたい。

4. まとめ

BI ツールの導入により、データの可視化と分析が容易になり、新たな視点を得る可能性が広がった。がん対策のように長期的なデータ蓄積が求められる分野では、BI ツールの活用が特に有効である。(COI (無))

背景

- 第4次佐賀県がん対策推進計画
第3 分野別施策と個別目標
4. これらを支える基盤の整備
(4) がん登録の利活用の推進
(取り組む施策)
がん登録データの利活用の推進及び県民へのがんに関する情報の提供
- 「エビデンスに基づく政策立案」は行政のがん対策で期待される要素のひとつ

現状の課題


- ・ がんに関するデータが種類ごとに散在しており、データ分析するまでに至っていない。またファイル量も多く、フォルダ毎の管理が困難
- ・ 行政担当者（市町担当者含む）による分析力等に差がある
- ・ 県から市町へのデータの共有、フィードバックが限定的となっている

目的：Power BI導入のねらい

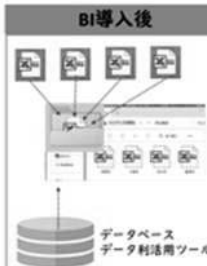
- ・ 誰もがデータにアクセスでき、すぐに利用できる環境を構築する
- ・ 庁内外の関係者と「共通認識の土台」をつくる
- ・ 「見える化」を進めて施策立案の質や情報提供を効率化させる

導入プロセス

BI導入前



BI導入後



- 計算式に値のセルを間違えないように割り当てる
- 各市町のファイルからコピー

データベース
データ利活用ツール

基本的な運用と使用データ

- ・ データの処理・整形：佐賀大学へ委託
- ・ 使用データ：全国がん登録、人口動態統計、国民生活基礎調査、地域保健・健康増進報告等



活用例①：県ポータルサイト「がんポータルさが」で公表



活用例②：共通言語（データ）を活用し、市町との連携を強化

検診受診率等を可視化し市町と共有する

連携し地域課題を特定

重点対策へ繋げる



市町	検診受診率	がん発生率	がん死亡率
佐賀市	75%	100/10万	15/10万
唐津市	78%	95/10万	14/10万
武雄市	72%	105/10万	16/10万
大町市	76%	98/10万	15/10万
小浜町	74%	102/10万	15/10万
鹿島町	77%	97/10万	14/10万
小浜町	73%	103/10万	15/10万
大町市	75%	100/10万	15/10万
小浜町	74%	102/10万	15/10万
大町市	76%	98/10万	14/10万

今後の展望と課題

- ・ 利用者拡大（庁内、関係機関）
- ・ 人材育成・業務への定着化
- ・ 統合データの可視化（死亡・罹患の連動したデータなど）



まとめ

- ・ データの「見える化」は政策づくりの出発点
- ・ Power BIはその手段の1つ
- ・ 今後も「がん対策の基盤の整備」に向けて、データ活用の深化を目指す